

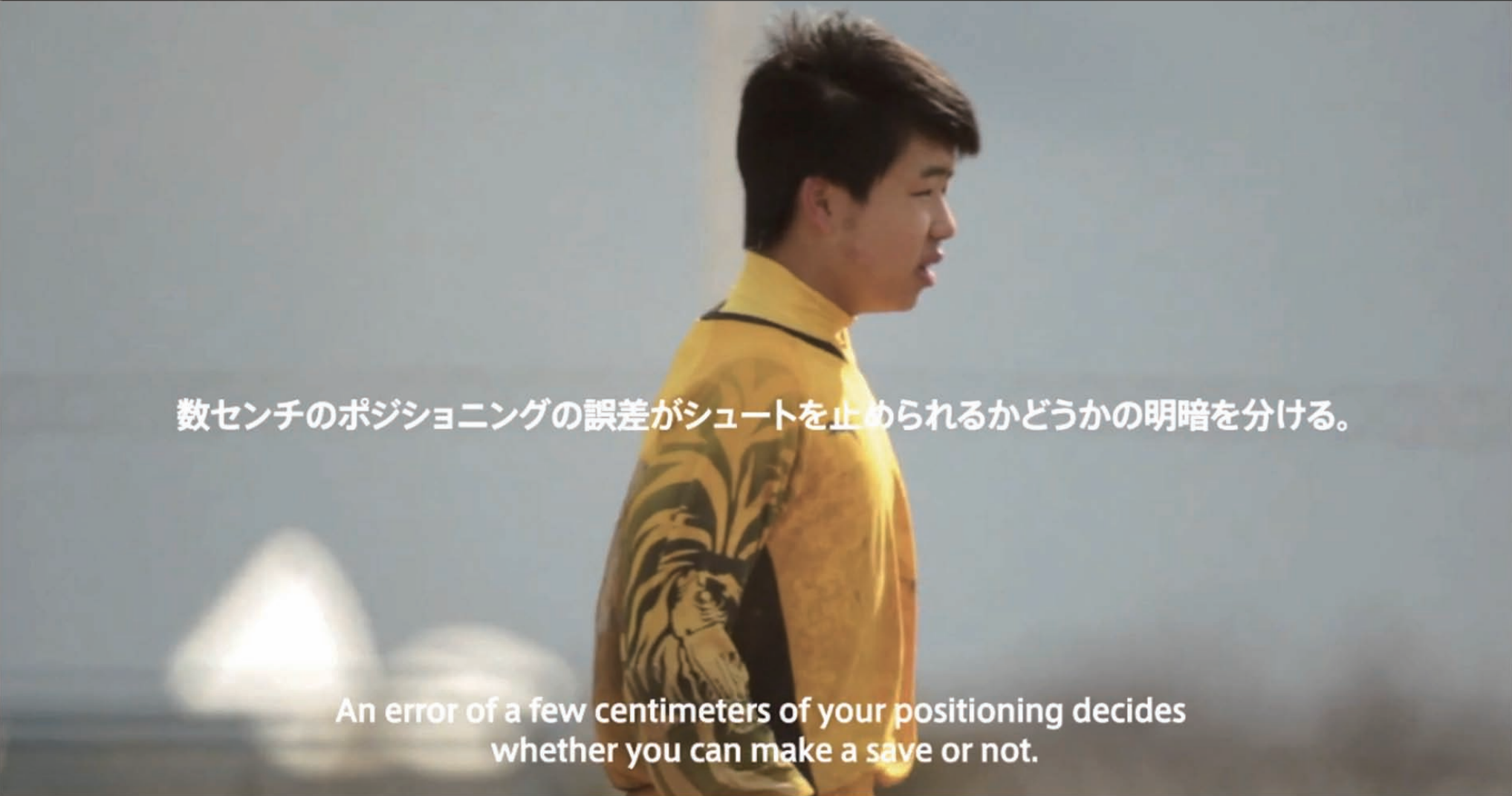
TAKEHIRO IIKAWA



Stealing time project – half time (soccer)

2008 / multi-video installation (soccer 45 min, Basketball 15min, boxing 20 min)

It is a video work that uses rules of sports and explores our perception of time. I stole time of the game from a sport player. Before the game, instruction had been given to all players all judges except the one player.



数センチのポジショニングの誤差がシュートを止められるかどうかの明暗を分ける。

An error of a few centimeters of your positioning decides whether you can make a save or not.

HIGHLIGHTSCENES Goolkeeper – a few centimeters of positioning –
Multi-channel video installation, 20 mins (2015)

It is a collection of movie portraits of the goalkeepers in the world-popular sport, soccer. The international philosophy of the best keepers are “not touching the ball even once during the match”. A video recording of “a goalkeeper who don’t touch a ball even once during the match with having too much time on his hands.” The video is accompanied with texts about the original roles of a keeper and ideal forms.

「ハイライトシーン / ゴールキーパー - 数センチのポジショニング -」

「試合中に一度もボールに触らず暇を弄んでいるキーパー」の記録映像と本来のキーパーに課された役割や理想の形をテキストで鑑賞者に明示した。



HIGHLIGHTSCENES Goolkeeper – a few centimeters of positioning – Multi-channel video installation, 20 mins (2015)

It is a collection of movie portraits of the goalkeepers in the world-popular sport, soccer. The international philosophy of the best keepers are "not touching the ball even once during the match". A video recording of "a goalkeeper who don't touch a ball even once during the match with having too much time on his hands." The video is accompanied with texts about the original roles of a keeper and ideal forms.

「ハイライトシーン / ゴールキーパー - 数センチのポジショニング -」 インスタレーション

サッカーの試合中、ボールに触れることのないゴールキーパー達を映しました。私達観客はゴールや勝利が決まる瞬間、ボールがある場所に注目しています。チームスポーツに起こるアンバランスな景色を映しています。



Decoratorcrab “an impulse and around it”

Shioya Higashi-machi Citizen's Park, Kobe City, Japan (2015), Mixed media, 40 photographic boxes, wood

This work explores the structure of impulse caused to the diver when he finds a decorator crab, mimicking the surrounding environment. It collects things around the “impulse”, use them as an index and present that there is no physical ingredients for the “impulse.”

デコレータークラブ - 衝動とその周辺にあるもの - 「神戸市塩屋東町市民公園」

海に擬態しながら生きる蟹「デコレータークラブ」、それをダイバーが見つけた時に起こる衝動の構造を作品にした。「衝動」が起こるその周りのモノを集め、ある指標として衝動の元になるモノ自体は必要ないことを提示。



「衝動とその周辺にあるもの -Decoratorcrab project: Mr.Kobayashi, The Pink Cat -」

2016 年／六甲ミーツアート芸術散歩2016 ／神戸

サイズ: 500 cm x 650 cm 素材: 木材、蛍光塗料 協力: MAKER'S, 株式会社POS 建築観察設計研究所

デコレータークラブ - 衝動とその周辺にあるもの -「Mr.Kobayashi, The, Pink Cat」

観客が、この猫を見た時、感動を誰かに伝える作業をすると想定しています。観客がいつもの様にカメラを構え、遭遇したモノを記録する時、写真やビデオで伝えることがどれくらい重要なことなのか自問する装置を制作。



What is Faith Today? My god I Your god “Secret Frames”

SEIAN ART CENTER, Shiga, Japan. (2014)

ビデオインスタレーション / 18分 / 成安造形大学ギャラリーアートサイト

What is Faith Today? “My god ; Your god” 「秘密の枠」

街に佇む人々に焦点をあて、何もせず遠くを見つめる人、うずくまっている人、彼らをクローズアップした構図に対して観客は覗き見をする感覚を覚える。現代に生きる私達はこの様な視点で観察されているかもしれない。



Stealing time project – half time (soccer 45 min, boxing 20 min, basketball 15 min)
multi-video installation. (2008)

時間泥棒プロジェクト - ハーフタイム - (サッカー 45 分 , ボクシング 20 分)

スポーツのルールを利用し、時間の感覚を探るビデオ作品。ある 1 人のスポーツ選手の試合時間を盗んでみました。フォーカスされた選手にのみ試合時間が半分で終了することを伝えていない。試合は何も問題なく終わる。鑑賞者の体感する時間とビデオの中の男達が過ごした時間には、大きな差が生まれている。



Decoratorcrab “an impulse and around it”

Shioya Higashi-machi Citizen's Park, Kobe City, Japan (2015), Mixed media, 40 photographic boxes, wood

This work explores the structure of impulse caused to the diver when he finds a decorator crab, mimicking the surrounding environment. It collects things around the “impulse”, use them as an index and present that there is no physical ingredients for the “impulse.”

デコレータークラブ - 衝動をつくる - 「東京都吉祥寺三鷹造園の機材場」

海に擬態しながら生きる蟹「デコレータクラブ」、それをダイバーが見つけた時に起こる衝動の構造を作品にした。「衝動」が起こるその周りのモノを集め、ある指標として衝動の元になるモノ自体は必要ないことを提示した。



The Clock for Practice of Time. “Happening Upon”

2006 – 2013 Multichannel Video Installation / 24 hours (on loop), The Museum of Modern Art I Shiga, Japan. (2013)

The duration of this work, 24 hours, makes the work just like a clock that we use everyday.

It presented every series from the Clock for Practice, beginning in 2006. The viewers stumble upon various incidents.

時の演習用時計シリーズ「遭遇するとき -Happening Upon-」

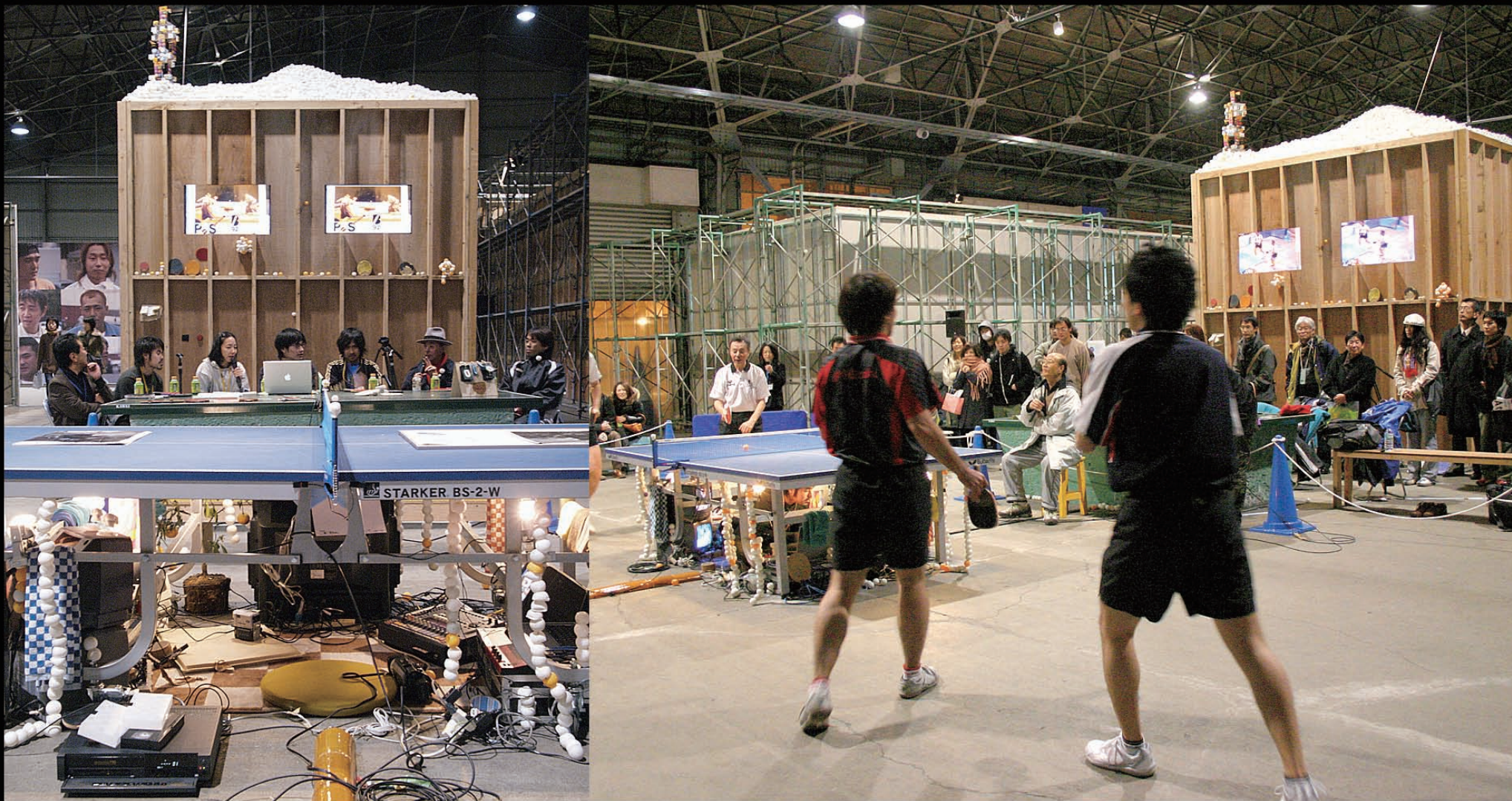
この作品は、24 時間の長さがあり、日常の生活で使う時計のようなモノです。2006 年から始めたときの演習用時計プロジェクト全シリーズを一同に集めた。観客は様々なちりばめられた事件に遭遇します。



Spectacle in the farm / collaborative works: Hajimeten
mixed media, photographs, video, game, stuffed toys / Nasu Animal Kingdom, Tochigi, Japan. (2010)

「スペクタクル・イン・ザ・ファーム 新しいどうぶつ王国」

アーティストグループ「ハジメテン」としての共同制作。インスタレーション・写真・映像・ゲームプログラミングを担当。



Extra Practice / collaborative works: COUMA (2005-2016) / mixed media, ping pong table, ping pong balls.

YOKOHAMA 2005: International Triennale of Contemporary Art - Art Circus [Jumping from the Ordinary], Yokohama, Japan (2005)

Ping pong tables are placed in the middle of the exhibition space. The members stayed in this space as much as possible, and played ping pong seriously turning the space of exhibition into a "new practice arena".

「エクストラ・プラクティス」

COUMA (コウマ) のメンバーとして共同制作。会場の中心に卓球台を配置し、メンバーが可能な限りそこに滞在し、卓球を真剣にプレーしながら「新しい練習場」を完成させた。



Fade out, Fade up / Expressway

2012 digital print, mounted on acrylic board 525 mm x 800 mm. (2012)

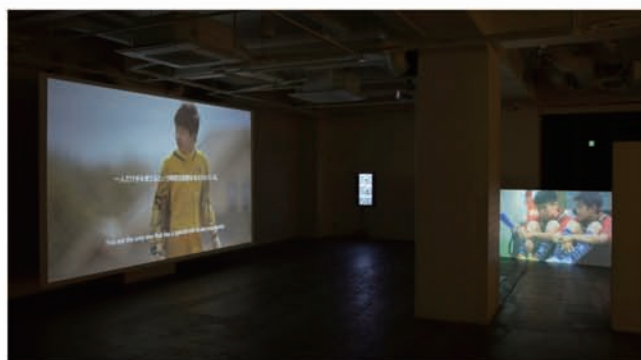
This work portrays the patterns and lines that appear after the city light completely goes out in the middle of the night. The presence of strong light gradually reveals landscapes that cannot be seen under the light.

フェードアウト、フェードアップ / Fade out, Fade up

真夜中、街のすべてのライトが消えることで浮かび上がり見えてくる図像や線をスナップの手法で切り取りました。強い光がある事で、見えていなかった風景がゆっくりと見えてくる様を写しました。



fade out, fade up
awajishima island, hyogo, Japan (2012)



ひとりはみんなのために - All for one? -
HOTEL ANTEROOM KYOTO GALLERY 9.5, Kyoto, Japan
2016

ボールを待ちながら 飯川雄大個展「ひとりはみんなのために」

飯川雄大は6歳でサッカーを始めてから、今日まで一時たりともサッカーを忘れたことはない。今でも最低週2回の練習を欠かさないばかりか、毎日ドリブルで通勤するというほどの熱の入れようだ。しかし、そんな自他ともに認めるサッカー野郎の彼の中には、もう一人の飯川、つまり美術作家の飯川雄大が潜んでいることを忘れてはならない。ユニホームを身に着け、サッカーシューズを履き、フィールドの外に設置した望遠カメラのファインダーからグラウンドを望む。軽快なボールの動きでも華麗なテクニックでもなく、何の変哲もない光景に向かって、ビデオカメラを回し続けるのだ。周囲のプレイヤーたちは、同じコートに立つサッカー仲間が、遠方からカメラで何を狙っているのか、まして自身の姿が美術作品として展示空間に現れていることなど、知る由もない。マラドーナの悪名高き「神の手」ゴールしながら、密かに彼らの姿を捉えるのも神の手の仕業だと言って退けるのだろうか。しかし、飯川の作品に映るプレイヤーたちは、そんなこと構いなしだとも言わんばかりに、甘い表情と優美な佇まいで私たちの視線を釘付けにする。アンテルーム京都で開催された飯川の個展「ひとりはみんなのために」は、3つの映像と写真作品で構成されている。これらの作品に登場するのは、ボールが回ってくることのないプレイヤーたちの寛いだ身体は、バランスのとれた非相称性で画面に絶妙なコンポジションを作り上げている。さらに飯川は、これらの被写体の容姿から一人勝手にアイデンティティを妄想し、そのイメージに類似する実在のプロ選手の名前や国籍、所属チームを引用して、写真と作為的に組み合わせた架空のトレーディングカードまでも制作している。民族、性、年齢を越えた平等な世界スポーツが掲げる倫理観を意図も簡単に裏切ってみせるのだ。多様な形態で現れるおかしみに満ちたプレイヤーたちの肖像は、飯川の直感と編集精神の賜物だ。長い時間をかけて取りためた映像から特定の瞬間を選び抜き、つなぎあわせ、テ



Winning Position Card "GoalKeeper"
トレーディングカード 65 mm x 93
2016

キストやデザインを施し、タイトルをつける。この編集作業は、映像の中や平面上に留まらず、空間のレイアウトへと展開する。本展では大小様々なプロジェクションやモニターを組み合わせることで、物質的に質感の異なる映像を混在させ、また異なるアイレベルを設定することで「観る」という行為を身体的体験へと変容する。そこに発見されるのは、複数の孤独な時間、すなわち、試合終了に向かって持続する時間から断ち切られた、尺度にしたがわない時間だ。ユニークな時間論を展開したフランスの哲学者、ガストン・バシュラールはこの孤立した時間を、水平的に過ぎ去る普通一般の時間に垂直に切り込む瞬間であると述べる。

飯川の手によって持続する時間から切り取られ、因果関係的に捉えられる時間の流れから解放されたプレイヤーたちは、不思議な親しみ深さでもって私たちに近寄り、忠誠と裏切り、愛と憎悪、衝動と抑制— 人の心の中には相容れない感情が同時に存在するという事実を、優しく目の前に突きつけてくる。バシュラールはいう「本質的にいつて詩的瞬間とは、二つの相反するものの調和的關係である」。私たちが目撃しているのは、詩的瞬間を獲得すべく、自主トレーニングに耽るプレイヤーたちであり、自己の内面的矛盾を受け入れたいと欲する私たちは、彼らが身を置く瞬間に魅了され、孤独の中に自分を見出す勇気を手にいれるのだ。

平野真弓
キュレーター、98B COLLABoratory 共同主宰

神戸

■本社報道部

〒650-8571
神戸市中央区
東川崎町1-5-7
TEL...078-362-7040
FAX...078-360-5501
e-mail
kobe-ban@kobe-np.co.jp

■北神支局

TEL...078-741-5814

火事や事故の速報、写真、映像
提供、身近な話題、生活情報を
上記へご連絡ください

葬祭

078-157519942代
株公営社
神戸市兵庫区中道通2丁目1番5号

神戸市規格葬儀指定／兵庫県職員互助会指定
神戸市職員共助組合指定

芸術家

飯川 雄大さん(35)

衝動の周辺にあるもの描く

ビルの窓や喫茶店の本棚、公園の看板。見慣れているが、見過ごしてしまいうような垂水区塩屋地区の風景写真を1辺60センチの立方体に張り付けた。そんな30個の立方体を6段階積み上げた造形作品の名前は「デコレータークラブ」。貝殻や海藻を甲殻にまとい、擬似するカニに重ね合わせた。昨年11月と今年2月、デコレータークラブが塩屋の公園や空き店舗に現れた。塩屋で撮影しながら決して塩屋の象徴ではない写真の集合体。同様の作品を、東京でも試みた。「衝動の周辺や裏側にあるいろいろな物事や出来事を描く。現在は「デザイン・クリエイティブセンター神戸（K-I）で、本質を追求したい」



現象の本質追求したい

「これぞ神戸流」が発行する情報冊子の写真を担当する。写真や映像、イラストなど作品の手法は多岐にわたるが、共通するテーマは「周辺」だ。

例えばサッカー。スポーツニュースでは、勝負を決めたシュートや鋭いラストパスなどが、ハイライトシーンが映し出されるが、それはサッカーのほんの一部分だ。「画面の外でもサッカーの時間は流れている」として、少年サッカー大会では、ボールを一度も追わず、ゴールキーパーの動きだけを撮影し続けた。「人気競技に潜むアンバランスな現象に興味がある。観客の焦点の外にある見過ごされた風景を集めたい」

5月には映像や写真の個展、夏には芦屋市立美術館でワークショップを開催予定だ。中央区在住。(金 慶順)



'Next Fire' 2016



'Winning Position' 2016

ひとりとは
みんなのために!?
スポーツの孤独な時間。

飯川雄大はサッカーを素材にした作品を作っている。たとえばサッカーの試合中、ボールの動きに関係なくゴールキーパー、あるいは補欠選手にカメラを固定、そこに映るのも確かにサッカーではあるのだが。

「10年くらい前、草野球やアイスホッケーの試合中にまったくボールに触れてないけど、得点の瞬間は仲間と喜んでいたりう人だけをずっと撮ってたことがあって」

「チームの輪の中と外、その曖

昧な場所にいる選手っていますね。という意味では、ゴールキーパーは、まさに棒立ちな時間が多い立場。

「そうなんです。サッカーって、21対1みたいな時間があるって、実はバランスがめっちゃ悪いスポーツなんです」

「ボールがあるところに人が固まっていますから。」

「だから、観客も、監督も、カメラも、その選手の肉親でさえも、誰も見てない選手の。無の瞬間って結構あって、そういうところが気になるんです」

「言われてみれば、スポーツって熱狂と退屈の時間が裏表にあるけど、普段、注目を集めるの

は熱狂の方ばかり。

「ベンチにいる補欠だけを撮っていると、やるぞって顔で試合を見てる子もいるけど、砂を集めて作った山の上にボール乗せてる子とか、とりあえずボカリ飲んだる子とか。自分も補欠だったからよくわかるけど、ひとりみんなのために。」というスローガンのように、チーム一丸の気持ちになったことなんて実は一度もなかったなって」

「補欠として過ごす時間、これもサッカー。」

「試合前に円陣を組んだときやゴールを決めた瞬間みたいな、エネルギーにあふれた部分とは明らかに違っているところが面白いなと思います」

「飯川さんは、今もサッカーをやっているんですね。」

「神戸の3部リーグでやってますけど、次に作品にしたいと思ってるのは、控室とかで聞く悪口。11人の仲間全員が仲いいことなんてなくて、試合後はすぐ2人、3人って仲いいメンバーごとに固まって、自画自賛したり、本人に直接言わない意見や悪口ばかり。僕もすぐにシュート打つのでボロボロに言われますよ(笑)」

「これぞスポーツの真実(笑)。」

「ボールを思い切り蹴りたいだけ、ドリブルで人を抜きたいだけ、ラブレターしたいだけ……いろんな人がいますから。でもこれって、学生時代のサッカーもそうだった。なんか繰り返してるなと思います」

けもの道を 行け!

vol.15

解説 竹内厚

少し前からFacebookで、自分のやった仕事のことがアップしています。脳目もふらず。

今月の大芸人

飯川雄大さん

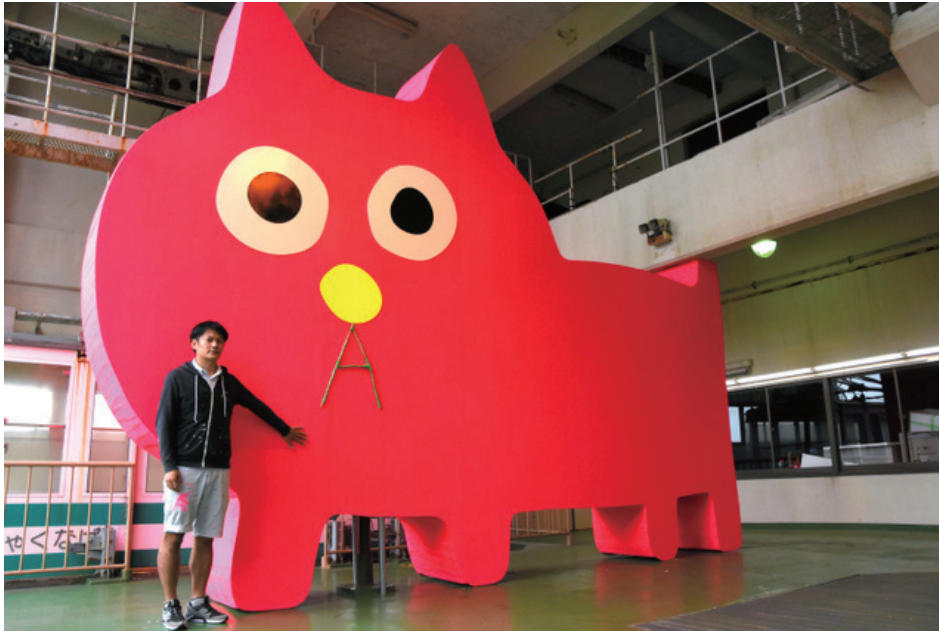
映像表現を中心に、写真、イラストレーションなど様々な分野の作品を発表。最近では、オオルタイチ+YTA MOのゆうき「あたえられたもの」のジャケ写やMVも手掛けた。5月28日、KAAT神奈川芸術劇場での「オープンシアター2017」に出品。
→www.takehiroiikawa.com



「HIGHLIGHTSCENES Goalkeeper」
展覧会風景 (Koganecho Site-A Gallery)

秋の六甲山で芸術散歩 「ミーツ・アート」開催中

2016年9月27日06時26分



ロープウェー乗り場を占拠したピンクの巨大な猫。「ぜひ実物を見に来て」と作者の飯川雄大さん＝神戸市灘区



個性豊かな現代アートが、秋の神戸・六甲山を彩っている。今年で7回目の「六甲ミーツ・アート 芸術散歩」。山のあちこちに作品が置かれ、山上全体が巨大な「美術館」に様変わり。自然に触れながら、散策を楽しんでみては。…

朝日新聞デジタルに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.



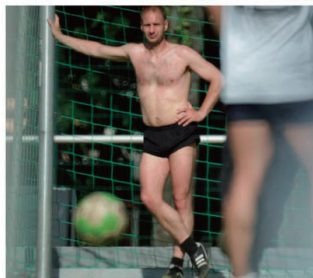
プレイヤーたちの「知られざる姿」にスポットを当てた美術展が京都で開催中

2016/06/06 00:00
Written by 編集部



様々な見方・とらえ方ができるのは、サッカーというスポーツが持つ魅力の一つ。現在京都で開催されている飯川雄大氏の『ひとりみんなのために』展はそれを改めて感じさせてくれる美術展である（写真：TAKEHIRO IIKAWA）。

Takehiro Iikawa Exhibition
All for one ?



2016 5/13 日 - 7/3 日

HOTEL ANTEROOM KYOTO
GALLERY 9.5

Happysings

飯川雄大
ひとはみんなのために

1981年生まれ飯川氏は、映像、写真、イラストレーションなど様々な分野で活動している美術家。代表作の一つである「ハイライトシーン」(2014～)は、サッカーの試合中ボールに触れることのないゴールキーパーを捉え続けた作品だった。

今回、『ひとはみんなのために』と題された個展では、サッカーの熱狂的なファンでプレイヤーでもある彼ならではの視点で、身体的な時間感覚や協働における団結などに新たな問いを発生させる映像作品を軸に展開されている。



作品には、華麗なゴールシーンなどの決定的瞬間はなく、フォーカスされるのはむしろ光の当たらないプレイヤーたちの知られざる情熱的な表情や愛すべきポジショニング。そんな彼らへの執拗なまなざしは、年齢や国籍、経験を問わず同じグラウンドに立つ者からの“プレイヤー讃歌”であるともいえる。



すべてのシーンが、サッカーの一部だ。

『ひとはみんなのために』展は、7月3日(日)まで京都の「HOTEL ANTEROOM KYOTO」で開催中。なお、過去に発表し好評を得た作品も今回展示されている。

会期 2016 年 5月13日(金)～7月3日(日)

12:00 PM - 7:00 PM

(※休館日 6月12日(日)～16日(木))

<http://hotel-anteroom.com/gallery/1436>

会場 HOTEL ANTEROOM KYOTO GALLERY 9.5

京都市南区東九条明田町7番

TEL : 075- 681- 5656 <http://hotel-anteroom.com/>

JR京都駅八条東口より徒歩15分/地下鉄烏丸線九条駅より徒歩8分



文芸誌「ゲーテ」11月号2016年 美と真実

